

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

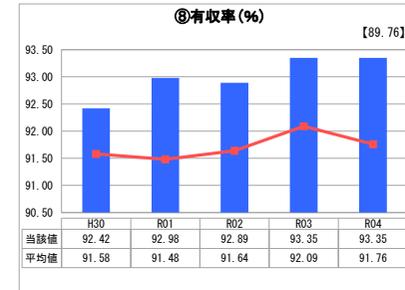
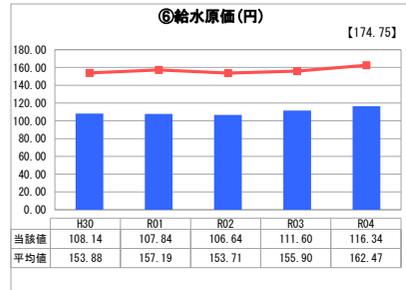
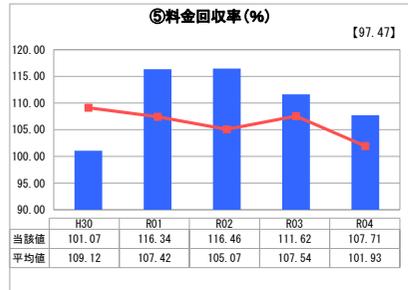
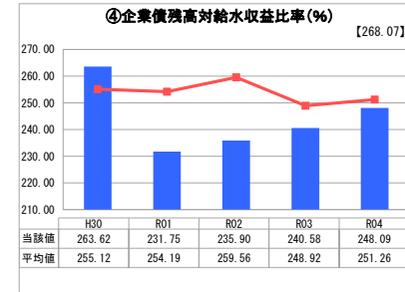
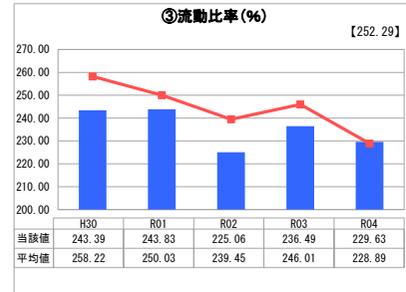
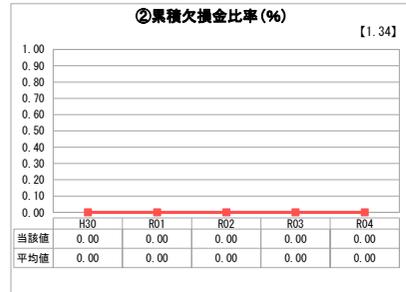
岡山県 倉敷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	75.68	99.94	2,200	

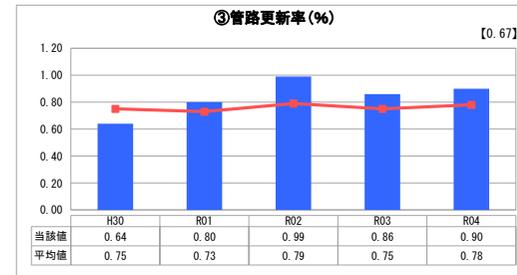
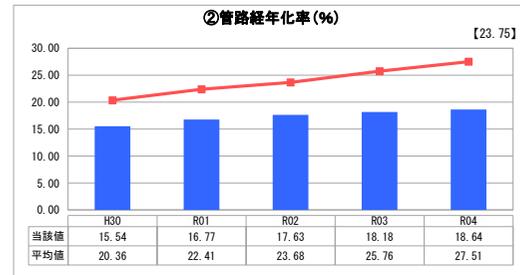
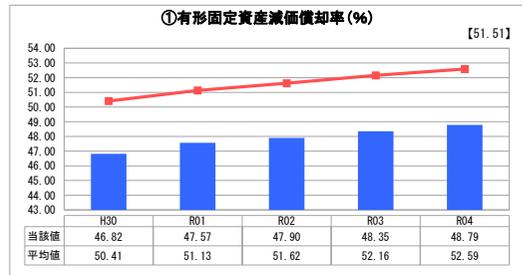
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
477,799	356.07	1,341.87
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
476,414	356.07	1,337.98

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は黒字であれば100%以上となる指標である。類似団体と比べれば高い水準にあるが、浄水場に係るポンプ動力費などの費用増加により前年度比3.6ポイント減で、年々減少傾向にある。  
 ②累積欠損金は生じていない。  
 ③流動比率は、当座の支払能力を示す指標で100%以上であることが必要である。常に100%を超えており、短期的な支払能力は確保できている。  
 ④企業債残高対給水収益比率は、企業債残高の規模を示す指標で、類似団体より低い水準を維持しているが、企業債残高の増加に伴い年々増加している。  
 ⑤料金回収率は、100%以上であれば健全な指標である。常に100%を上回っており、給水に必要な費用は水道料金で回収できているが、年々減少傾向にある。  
 ⑥給水原価は、有収水量1m<sup>3</sup>当たりに係る費用で、類似団体と比べて低く、ほぼ横ばいで推移している。  
 ⑦施設利用率は、高いほど健全な指標で、利用率の低下は効率的な経営の阻害要因となるため、施設更新時には規模の縮小を含む統廃合を行っているが、配水量の減少に伴い、低下傾向にある。  
 ⑧有収率は、100%に近いほど健全な指標で、全国及び類似団体より高い水準にあり、効率的な給水が行われている状況と言える。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、資産の減価償却がどの程度進んでいるのか、②管路経年化率は、法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示す指標で、①②どちらも類似団体と比べ低い水準で推移しているものの、年々増加しており、施設の老朽化が進んでいる。1990年代まで積極的な管路整備を行ってきたことから、今後も更新需要が増加すると見込んでいる。  
 ③管路更新率は、管路の更新ペースを把握できる指標で、管路を含めた老朽施設の更新を積極的かつ計画的に行っている。

### 全体総括

本市の運営状況は、現時点では、経常黒字を維持しており、また、老朽化等の各指標と類似団体との相対的な比較をすると、良好な経営水準にあると判断される。  
 しかし、今後人口減少等に伴う給水収益の減少、昨今の物価高騰による動力費等の増加、また管路を含めた老朽施設の更新に伴う費用の増加等により、経営状況は厳しくなる見込みである。  
 今後は、水需要に応じた施設のダウンサイジングを進めつつ、計画的な施設更新を行うことが必須であり、持続可能な水道事業経営を行うためには安定的な財源を確保する必要がある。